

教育環境改善 プロジェクト 確かな学力のために

▶▶ 16

新潟・上越市立城北中学校

新潟県上越市立城北中学校（中野敏明校長、生徒482人）は、パナソニック教育財団の実践研究助成で「人間力の育成のためのカリキュラム開発」を研究テーマに、特別研究指定校として本年度から2年間の助成を受けている。同財団では「人間力の育成」にICTなどの効果的活用を絡めたテーマは、取り組む学校にとって難しいことも当初予想したが、重要な課題と考え設定した。このテーマの下で同校が設定した研究課題は「地域と進めるキャリア教育」。4年前から取り組んで



歌ありダンスあり、笑い誘う演技に、集中して見入る子どもたち

特別研究指定校編

②

11月上旬、財団が助成する実践研究のアドバ

いる課題だが、その基本方針は、自分の将来に夢を持ってもらい、自分を見つめ、主体的に活動する能力や態度を養うこと。人間関係の形成、情報活用、将来設計、そして意思決定という4つの能力の育成を目指す。この方針に沿い開発に取り組むカリキュラムは「教科・道徳・特別活動・総合学習の

夢、希望など題材に演劇公演

「地域と進めるキャリア教育」の一環で

イザーを務める赤堀侃司・東京工業大学教育工学開発センター教授が同校を訪問した。同教授はパナソニック教育財団常務理事でもある。この日、地域交流活動カリキュラムの一つである青少年演劇集団「スタートライン」の公演が行われていた。この演劇集団は、地域住民で



「ICTや情報メディアの活用から新たなカリキュラムづくり」を大塚教諭らに示唆する赤堀・東工大教授(手前)

もある同校OBが平成8年、学校、家庭、地域が一体で進めていた「いじめ根絶」の一環として、当時の3年生と語り、立ち上げた。公演には同校を卒業した高校生、教員を目指す上越教育大の学生らが協力し、同校生徒のほか、校区内の小学校3校の6年生全員が観劇に訪れた。

赤堀教授は「城北中と地域との関係を見て、かつて地域社会が機能していた時代を懐かしく思い返した」との感想を漏らしていた。研究代表者の大塚啓教諭は「地域の大人や子ども同士がかかわり合う中で、演劇や子どもフォーラムなどの活動を、本校がキャリア教育で目指す4つの能力と関連付けた展開をしていく

来への希望を抱いてゆくと、いうストーリー。公演後には、全員で「子どもフォーラム」を開き、自分たちの学校自慢や学校を良くする方法をめぐって意見交換した。

本連載、過去の記事は、日本教育新聞コミュニケーションサイト「先生解決ネット」(<http://www.kyoiku-press.com>)もしくは、パナソニック教育財団HP(<http://www.pef.or.jp>)から閲覧できる。

ことで、主体的に行動する子どもたちが育つ教育環境が出来上がっていかればよい、と思っています」としながら「このような活動を蓄積・記録していくことで、人間力の育成カリキュラムの開発に次年度も取り組んでいきたい」と語る。キャリア教育は成果の把握が難しい。赤堀教授は「カリキュラム開発を進める過程で、子どもがこう変わったという具体的な証しを数字で残してほしい。アンケートの結果を数値化して誰が見ても成果が分かるようなところまでやっていたら、他校にとって大変参考になる」と要望するとともに、「ICTや情報メディアの活用と研究も進め、新たなカリキュラムづくりを推進してほしい」と次の課題について示唆した。

◇この連載は、(財)パナソニック教育財団 (URL=<http://www.w.pef.or.jp>)と助成先の協力により実施しています。

次回は8日付に掲載

新潟・上越市立城北中学校

教育環境改善 プロジェクト 確かな学力のために

▶▶6

松下教育研究財団
第34回実践研究助成

「特別研究指定校」編

ICTの活用を研究課題に織り込む学校が多い中で、新潟県上越市立城北中学校(中野敏明校長、生徒481人)は人間力を育成するカリキュラム開発に重点を置いて助成申請した。研究課題は「夢や目標をもち、主体的に活動する生徒を育むカリキュラムづくり」と実践し地域と進めるキャリア教育を中核にしながら、同校のキャリア教育の開始は4年前にさかのぼる。だ



平成20

地域巻き込みキャリア教育

が、研究代表者の大塚啓教諭が、写真は「学校内で授業や部活動を通してやることに限るとは言えず、地域の子ともたちを自分たちで育てようと

しさを口にする。生徒たちの現状を見てみると、地域の大人とのかかわりが希薄で、地域に対する理解がなかなか深まらない。自立心が育っていない生徒も少なからず見受けられるというのが同教諭の受け止め方

店舗経営など通じ人間力培う

する当事者意識も不十分だという。課題克服に向けてどのように活動を展開するのか。同校は保護者、地域を巻き込んで「スクールコミュニティ城北」を創出し、学校教育の基盤をつくるという構想を描いている。そのために、学校内においては教科・道徳・特活・総合の統合カリキュラム、校外では社会貢献を中心とした地域交流活動カリキュラムを両輪にする計画だ。統合カリキュラムの内容はユニークだ。この地域には街の空き店舗を借りて店舗経営を実地に学習する「チャレンジショップRikka」があるが、城北中の1年生は他の

小学校、商業高校、上越教育大学と連携しての運営に参画し、店舗の内装、商品開発、宣伝、販売などを担当する。2年生は平日に5日間連続で職場体験。3年生は進学したい上級学校を訪問体験する。地域の職業人を招いて出前授業なども計画している。「地域には、共に子どもたちを育てるという精神を生み出してほしいし、子どもたちも地域に見守られ、褒められれば、自尊感情が高まるのではないだろうか」。大塚教諭の期待は大きい。

次回は21日付に掲載